

# 将棋についての共感覚

岩崎 純一

2014年12月13日作成

掲載サイト:「岩崎純一のウェブサイト」

<http://iwasakijunichi.net/>

## 目次

1. 将棋の盤面上における私の共感覚の様子
2. 文字についての共感覚色と将棋中のみの独特な共感覚色との比較表

# 1. 将棋の盤面上における私の共感覚の様子

## 【解説】

私は、将棋を指すときにも共感覚で指しています。共感覚で指さないことも可能です。チェスも同様に共感覚で指しています。

## ※ ポイント

○主にその駒のいるマスとその駒が動ける周囲のマスに色がつく。ただし、後者のマスのほうが色が薄いことが多い。

○複数の駒が利いているマスは色が混ざることが多い。

○持ち駒の状態でも、周囲の架空のマスに色が見える。

↓ ▲7一角打まで171手にて△後手投了(▲先手の勝ち)の局面  
(以下、△9二玉、▲9三歩打、△同桂、▲8二金打までの詰み。)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
歩	香	桂	角	金			飛		香	一	▲先手 (岩崎純一)
歩		玉	銀							二	金
桂		歩	歩	歩	歩					三	金
桂				銀	歩		歩		歩	四	銀
角		龍						歩		五	桂
飛	歩						歩		歩	六	歩
		歩		成香				王		七	歩
						金				八	歩
▽後手							銀		香	九	歩

## 2. 文字についての共感覚色と将棋中のみの独特な共感覚色との比較表

### 【解説】

将棋の駒に見える共感覚色は、駒の文字自体に見える共感覚色とは異なっています。

※ 共感覚と言語表現との対比から考えられる分析

「効果が小さい」ことを「効果が薄い」と言うように、「駒のはたらき・動きが小さい」場合に「共感覚色が薄い」傾向がある点については、非共感覚者にも比較的理解されやすいのではないかと考える。

	普段の共感覚色 (駒の文字の共感覚色そのもの、文章読解中の文字の共感覚色など)	将棋中の共感覚色 (文字の意味ではなく駒の動きの色)
王・玉		
龍		
飛		
馬		
角		
金		
成銀		
銀		
成桂		
桂		
成香		
香		
と		
歩		